

2年B組 美術科 題材設計・学習指導案

指導者 大口 愛子

1 日時（場所） 1月12日（水） 10:50～11:40（2年B組教室）

2 題材設計（題材名：季節を楽しむ心）

(1) 本題材で育成したい自立と共生の力

○問題の解決に向け、自ら考え、見通しを持って行動する力

○解決の過程や結果を振り返って修正・改善する力

○自分の気持ちや考えを表現し、伝える力

(2) 題材目標

○自然を感じさせる形や色彩に注目し、造形物の美しさをとらえ、材料や用具の特性を生かし、見通しをもって表すことができる。 「知識及び技能」

○季節感を取り入れた日本の伝統や使う場面などをもとに、形や色彩、材料などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりすることができる。 「思考力・判断力・表現力等」

○生活に基づく美術の働きに気づき、季節感を表すことに関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(3) 重点目標

＜本質的な問い＞

生活に基づく美術の働きとは何か。

＜永続的な理解＞

現代社会を生きる生徒たちは、デザインや工芸製品などをはじめとする多くの美術的な製品に囲まれて生活している。その中で、身の回りの様々なものから色や形に興味を持つだけでなく、自らの生活に取り入れることもある。美術科の学習において生活の様々な造形と豊かに関わることができる資質や能力を育成することで、普段の何気ない毎日の中で、楽しさや安らぎが感じられ、心豊かに生活することにつながっていくことになる。

(4) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形や色彩などが自然や季節を感じさせる効果や、造形的な特徴などを基に、造形物の美しさを全体的なイメージで捉えることを理解している。	①季節感を取り入れた日本の伝統や使う場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて形や色彩、材料などの効果を総合的に考え、表現する構想を練っている。	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に生活に息づく美術の働きなどを基に、季節感を表す構成や装飾の目的や機能を考えて構想を練ったり意図に応じて表現方法を創意工夫し見通しを持って創造的に表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。
②材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表している。	②季節感を取り入れた日本の伝統や使う場面などとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	

(5) 評価の方法

パフォーマンス課題	その他の評価方法
あなたは駆け出しのデザイナーです。ある日、自分で四季をテーマにした商品をデザインし、売り出す機会が巡ってきました。自分が表したい季節のイメージを表すためには何をどのように入れればよいかを考え、それをふまえた新しい商品をデザインしなさい。	○ワークシートへの記述 ○ロイロノートでの記述 ○観察 ○発表

<パフォーマンス課題についての予備的ルーブリック>

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	形や色彩などが季節を感じさせる効果や、造形的な特徴などを基に、造形物の美しさを全体的なイメージで捉えることについて幅広い視点で理解するとともに、材料や用具などの特性を生かし、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表している。	季節感や商品のよさを表現するために、美的感覚を働かせて形や色彩、材料などの効果や配置を総合的に考え、構想を練っている。	Bより自分の日常に照らし合わせては幅広い視点で考え、各過程での自らの課題を見つけ活動に生かそうとしている。
B	形や色彩などが季節を感じさせる効果や、造形的な特徴などを基に、造形物の美しさを全体的なイメージで捉えることについて理解するとともに、材料や用具などの特性を生かし、制作の順序などを考えながら、見通しを持って創造的に表している。	季節感や商品のよさを表現するために、美的感覚を働かせて形や色彩、材料などの効果や配置を自分なりに考え、構想を練っている。	制作の喜びを味わい、主体的に生活に息づく美術の働きなどを基に、構想を練ったり、意図に応じて表現方法を創意工夫し、見通しを持って創造的に表現したりする表現の学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
C	形や色彩などが季節を感じさせる効果や、造形的な特徴などを基に、造形物の美しさを全体的なイメージで捉えることへの理解が不十分であり、見通しを持って創造的に表すことができていない。	季節感や商品のよさを表現するために、美的感覚を働かせて形や色彩、材料などの効果や配置を考えることが不十分で、あまり構想を練れていない。	表現の学習活動に意欲的に取り組もうとしていない。

(6) 指導計画（全5時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準（評価方法）
1	・日本のデザインの中にある季節の表現の工夫について考える。	思	○	・季節感を取り入れた日本の伝統や使う場面などとの調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の意図と創造的な工夫などについて考えている。（観察・デジタルポートフォリオ）
2	・自分の表したい季節を決定し、資料を集める。	知	○	・形や色彩などが自然や季節を感じさせる効果や、造形的な特徴などを基に、造形物の美しさを全体的なイメージで捉え、創造的に表している。（観察・スケッチブック）
3	・集めた資料を基に、デザイン化を行う。	思		
4	・デザイン化した形を実際の商品の形に配置する。	思	○	・季節感を表現するために、美的感覚を働かせて形やその配置の効果を総合的に考え、構想を練っている。（観察・デジタルポートフォリオ）
5	・より季節感が感じる構成になるよう工夫する。			・友人のデザインの意図や創造的な工夫などについて考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めている。（ワークシート）
6	・配色計画	思	○	・季節感を表現するために、美的感覚を働かせて色彩の効果を総合的に考え、構想を練っている。（観察・デジタルポートフォリオ）
7 ～ 11	・ポスターカラーを使用して着色する。	態 知	○	・材料や用具などの特性を生かし、意図に応じて表現方法を工夫して、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しを持って創造的に表している（パフォーマンス課題）
12	・相互鑑賞会 ・活動のまとめ	態 思	○	・主体的に生活に息づく美術の働きについて考えることができたか。（デジタルポートフォリオ）

3 本題材と研究主題との関わり

(1) 生徒について

本学級の生徒は、明るく素直で何事にも前向きに取り組むことができる。答えが分かっているものや熟考が必要でないものには抵抗感なく行うことができるが、想像力や洞察力を働かせて新しい事柄を生み出すことは得意としていない。また、表現の制作活動において完成を意識しすぎるあまり、自由に発想が浮かんで来なかったり、失敗を恐れて筆が進みにくかったりする生徒も多い。これらを解消すべく、ワークシートの構成を工夫したワークシートを使って構想する活動を継続的に行ってきた結果、全体の約6割の生徒が以前よりも思考の活動がスムーズになってきたと答えており、効果が出始めている段階であると思われる。今回の題材でも思考の流れを意識させることや失敗してもやり直しができる環境をつくってやることで、先に挙げたような生徒も主体的に取り組むことができるようにさせたい。

(2) 題材について

美術科では、中学3カ年を通して様々なデザインについて触れ、考えさせることを目標としている。1年時には、線や形、色から感情を表す色面構成や工業デザイン製品の鑑賞、プレデザイナ体験、2年時には、ポスターの鑑賞や制作を行ってきた。それらの活動の中で、デザインの目的や概念の違いなど触れ、ねらいをもって制作や鑑賞を行うことで、自分とデザインとの関わりについて考えさせた。しかし休校の影響もあり、具体的なものの色や形からより美しい色や形へと変化させるいわゆる「デザイン化」といわれる部分の学習について不十分であった。2年という発達段階も考慮し、通常1年で行う活動よりも思考の段階をより積み重ねるとともに、1年の後半に行ったプレデザイナ体験の経験を生かしたものにしたい。また、表現と鑑賞の相互の関連を図り、相乗的な効果を引き出したい。

(3) 「深い学び」の実現に向けた指導の工夫について

ア 生徒自らが思考の変容を自覚することができる方法の工夫

美術科のこれまでの学習では、主にワークシートを使って学びの蓄積を行ってきた。この方法は、自分の思いや考えを率直に書き表すことができるという利点があった。しかし、振り返りのワークシートとアイデアをまとめるワークシートが別になっていることで、それぞれをリンクさせて確認することについて不便な部分が多くあった。また、タブレット端末のロイロノートスクールを使って学習する活動を併用することが時々あり、この活動の部分がすぐに見える形でまとめることがあった。そこで、今回はデジタルポートフォリオとしてこの題材の活動をまとめることにより、導入段階でのねらいの確認や活動内容の説明、各段階での学びの記録やその振り返り一つに集約するようにしたい。各段階の写真を貼り付けたり、フォームを使って言葉で考えを入力したり、友人から送られてきた意見を差し込んだりするなどデジタルの利点を生かしたい。これらのことにより、生徒自らが思考の変容や自らの学びの蓄積、深化をより自覚することができるようになると思われる。

イ ICT機器の利点を生かした作業の効率化

今回のようなデザインの構成の学習では、これまで紙媒体での作業が主であった。自分のイメージを直接的に表現できることには大変優れているが、同じ形を用いたり、大きさを調節したりするために、何回もトレースしたり、拡大縮小コピーを行ったりするなど多くの時間や手間が必要であった。また、手作業ということもあり、アイデアをたくさんかいて残すことについても限界があった。今回はアイビスペイントXというペイントアプリを使い、同じ形の貼り付けや角度や大きさの調節、重なりの効果の調節をタブレットの画面上で行いたい。また、着色の機能を使って配色計画も行いたい。これらICT機器を利用することにより、作業の効率化を図ると共にたくさんのアイデアを形に残すことで、生徒自らがそれぞれを比較検討しながら深める作業につなげたい。

ウ 生活と美術との関わりを考え、実生活に結びつける方法の工夫

今回の題材では、多くの場面で、自らの経験や生活の中で素敵だと感じるデザインについて考える活動を多く取り入れる。また、話し合い活動を通して、自分のそれらの考えを友人に伝えることで表現したり、逆に友人のそれらの考えに触れたりすることで考えを深めたりする。これらの活動の中で、生徒は自分たちが多くの美術に囲まれて生活していることに気づくであろう。また、実際にパフォーマンス課題として、商品を使う立場に立ってデザインを考え、制作することで、既存の知識や今までの経験を生かそうとすることや、自らの美的感覚を働かせてよりいいものと考えようとする活動につなげたい。そして自分たちの身近な生活の中における美術の働きについて自分のこととして考えさせたい。

4 本時の指導（4／12時間）

(1) 主題 季節をデザインしよう

(2) ねらい

○季節感を表すために、美的感覚を働かせて形や大きさ配置などについて総合的に考え、構想を練ることができる。

(3) 展開

学習活動 (形態)	時間	○教師の働きかけ ・予想される生徒の反応	○指導の工夫 ◎評価規準（評価方法）
1 本時の活動について説明する。（一斉）	5	○資料を基にデザイン化した形をもとに商品のデザインをしよう。	○本時のねらいを理解できるよう、実際の作品を提示する。
2 前時に考えた季節を表す形を実際の商品としてふさわしく配置する。（個人）	30	○アイビスペイントXの機能を使って基本形を商品の形の中に配置しよう。 ・どの基本形を使おうか…。配置によってイメージが変わるな。 ・私は大きさや重なりを工夫することで、動きを感じさせたい。 ・楽しい感じを出すためにリピテーションやリズムを意識した配置にしたい。 ・どのくらい傾かせるとバランスがいいかな。 ・もっとインパクトをだすためにはどのような工夫があればいいのかな。 ・商品の形に合った配置にするにはどのようにすればいいかな。	○実際の作業の手順を把握できるよう、実演しポイントを提示する。 ○手軽にレイアウトの作業ができるようICT機器を活用する。 ○自らの学びの蓄積、深化が後で確認ができるよう、作った物は保存させる。 ◎季節感を表現するために、美的感覚を働かせて形やその配置の効果を総合的に考え、構想を練っている。 (デジタルポートフォリオ)
3 お互いの考えたデザインについて発表する。（小集団）		○友達のアイディアを見て見よう。気付くことや、自分の作品に生かしたい部分あるだろうか。 ・〇〇さんは構成美の要素の□□を使っていました。それによって△△のような感じがしました。 ・〇〇さんは私と同じ素材を使ってデザインしていましたが、全く違う感じになっていて驚きでした。 ・〇〇さんの□□な部分がいいと思うのでぜひ自分も取り入れてみたい。	○本時の学びの内容を共有できるよう、ICT機器の提出機能や画面共有機能を活用する。
4 本時の活動の振り返りをする。（個人→全体）	10	○今日の活動を通して、身に付けた学びや次時に生かしたい課題などを記入し、発表しよう。 ・一枚の基本形から様々な商品のデザインを考えることができた。 ・角度や大きさにこだわりを持って配置することができた。 ・全体的に変化が少ない感じだったので、次回は変化をつけていきたい。	○本時の学習での学びをしっかりと振り返ることができるよう、記入の仕方を工夫させる。 ◎季節感を表すデザインの構想を練る活動に課題意識を持って取り組もうとしているか。 (デジタルポートフォリオ)
5 次時の活動について確認する。（一斉）	5	○次回はより自分のイメージにあう季節のデザインになるように工夫してみよう。	
授業研究の視点		○季節感を表すために、美的感覚を働かせて形や大きさ配置などについて総合的に考え、構想を練ることができているか。	